

くらしの移動を支える
特別委員会記録

令和8年4月13日

【開催日】 令和8年4月13日（月）

【開催場所】 第1委員会室

【開会・散会時間】 午前9時30分～午前10時30分

【出席委員】

委員長	宮 本 政 志	副委員長	藤 谷 圭 子
委員	伊 場 勇	委員	奥 良 秀
委員	恒 松 恵 子	委員	中 岡 英 二
委員	中 村 博 行	委員	濱 本 健 吾
委員	前 田 浩 司		

【欠席委員】

委員	中 島 好 人		
----	---------	--	--

【委員外出席議員等】

副議長	大 井 淳一朗		
-----	---------	--	--

【執行部出席者】

なし

【事務局出席者】

局長	船 林 康 則	局次長	中 村 潤之介
----	---------	-----	---------

【審査内容】

- 1 本市の交通施策について
- 2 本市の交通事情の実態把握について
- 3 その他

午前9時30分 開会

宮本政志委員長 おはようございます。それでは、くらしの移動を支える特別委員会を開催します。本日の付議事項、まず1点目です。本市の交通施策についてです。これはあまりにも幅は広いんですけど、特別委員会では、恐らく結構長期間をかけながら、かなり難しい進め方になってい

くと思います。大きく書いていますけれど、本市の交通施策についてをまず皆さんと議論したいと思ひまして、本日の付議事項の1点目にしております。本当に範囲が少し大き過ぎる内容ですけれども、付議事項1について。いきなりにはなりますけど、何か御意見等、質問、例えば委員長の私に対する質問でも構いません。御意見等はありませんか。

濱本健吾委員 最初に、市の公共交通計画を委員会全体で把握することが大事なのかなと感じています。そのためには、資料を確認して不明点は執行部を呼んで質問をするなどして、公共交通の方向性を市と共有することが必要だと思います。その上で、市民の声を聞いたり先進事例を研究したりするのがよいのではないのでしょうか。

宮本政志委員長 濱本委員の意見について、ほかの委員の方からありますか。

奥良秀委員 濱本委員が公共交通ということを言われたんですが、民生福祉では福祉タクシーとか、公共ではないいろいろなものとかがあると思います。あくまで今回の題材は「暮らしを支える」ということなので、公共だけでなくいろいろな交通とか、交通弱者とかがいらっしゃると思いますので、そういうところの洗い出しもきちんとしていきたいと思います。また、100円バスの視察も行っておりますので、視察報告の内容等々もう一度精査したほうがいいと思っております。

宮本政志委員長 でも、濱本委員が言われた公共交通において、本市の施策にもいろいろ計画がありますよね。そういったことも当然重要でしょうし、奥委員が言われたように、公共という意味ではないけど、交通全般のことも把握していかないといけないということやね。奥委員は視察に行かれたって言ったよね。貴重な税金を使って視察に行っているわけですし、当然、過去のこれまでの視察等の資料もいろいろ残っていますので、そういったところを調査して、実態を把握するというのは重要ですね。濱本委員と奥委員からも意見が出ていますので、濱本委員と奥委員の意見

について、ほかの委員の方から何かありませんか。

伊場勇委員　今の計画には、地域公共交通計画と、もう一つ都市計画マスタープランがありまして、それに付随していろいろな各施策があります。その原点になる二つの関連計画から、今の市の土台となるいろいろな施策をまとめて全体像をまずは把握することが必要なと思います。その後にデータ分析も必要なと思います。もちろん、施策の利用状況とか収支とかがどうなっているのか。交通空白地帯とよく言われますけれども、どういったところが空白になっているのかも一つです。ただ、その空白だけではなくて、やっぱり町なかにもいろいろなお困り事があると思いますので、それだけに特化せず、そういったところもいろいろ。濱本委員から「生の声を聞く」というようなことがありましたが、そういったところも加味しながら進めていく必要があると思っています。

宮本政志委員長　個別の計画云々というのは、今後またこういった計画、こういった市の施策に関して詰めていこうというときにはいいですが、今あまり個別をいっぱいここで羅列してもあれなんで。

恒松恵子委員　先ほど来、山陽小野田市地域公共交通計画について、執行部を呼んで質疑してはどうかという案がありましたが、これにつきましては、産業建設常任委員会所管部分で、既に予算決算審査のときも内容が出されております。委員の皆様の所管を超えた審査ということですので、奥委員長のおっしゃるように、福祉的視点を取り入れた関連する計画等から全体をみんなで研究していくのがいいかなと思います。あまり地域公共交通計画の文章を1節ずつ取って、これはどうかというのはなじまないかなというより、やはり、早く皆さんの暮らしを支えるための委員会なので、私はそのように考えております。

宮本政志委員長　中岡委員、奥委員と恒松委員が、それぞれ民生福祉常任委員長であり産業建設常任委員長ですけど、何か総務文教常任委員会として、

こういうところがこうかなというのがありますか。

中岡英二委員　総務文教常任委員会として、私も委員になったばかりなんで、そんなに交通政策に関しての議論はしていませんが、今言われたように、今までやってきた公共交通の施策の内容を深掘りするとか、さっき奥さんが言われたように、福祉の観点から高齢者の100円バスとか、いろいろそういう実態も見てきました。タクシーの利用もその効果というのかな。それを施策でやったときのタクシーの効果が結構あるということなんで、その辺をもう1回深掘りしてやっていったらどうか。実態にしても、いろいろ地域によって困り事があると思うんですよ。本山だったら少し離れているから、サンパークに行くとか病院に行くとか、結構距離があるから不便なところが——運賃にしても高いし、タクシーにしても高いからということでもありますから、市内とか厚狭北部にしても、その地域によっての困り事、実態調査というのも必要じゃないかなと思います。

宮本政志委員長　中岡委員ちょっと2点ね。先ほど奥さんって言われたけど奥委員です。気をつけてください。それと今、サンパーク云々の距離がこうって、これは付議事項の二つ目に入っていくと思うんで。実態、本市の施策についてです。総務文教は、いろいろ財政の関係や、もし条例改正が具体的にあると担当になってくるんで、その辺りもしっかり押さえながらということと、特別委員会は議長の大きなというか重い諮問によって発足した委員会ですから、3常任委員会それぞれの委員長がいらっしゃるけど、深く絡んでいきますよね。

中村博行委員　12月に意見交換会をしましたよね。それが一番各地の現状、生の声を聞いているので、これを含めて。ただ、場所が本山と不二輸送機ホールだったので、埴生地区ほか各個別によっては状況がまた違うと思います。現状把握というのが非常に大切になってこようかと思いますので、各地で部分的な意見交換会をするといったことも考えていかない

といけないのかなとは思いますが。全体としてどうするのか、個別でどうするのかは、すみ分けて考えていく必要があると思います。

宮本政志委員長　そうですね。中村委員がおっしゃったことも付議事項２番に関係してきますね。これは二つに分けちゃいけなかったかな。つまり、各地域のことも踏まえながら、今の本市の交通施策について具体的にどのようなことを共有していかないといけないか、協議していかないといけないかってことだからね。ただ、今日は付議事項を分けているので、中村委員や中岡委員が言われたことも少し絡んでくるかもしれないけど、その辺りは制限せずに聞いていきましょう。

恒松恵子委員　一つお尋ねなんですけど、この委員会の中で高齢者に目が向がちなんですけど、理科大の無料バスが廃止されたということも聞かれた方が多いと思います。それについてこの委員会の中なのか、総務文教常任委員会として取り上げるのか、どのような扱いになるかを確認できればと思います。全体ですから。

宮本政志委員長　ここは、最終的に私が委員長として議長には常に相談をしていきます。というのが、各３常任委員会、分科会も含めた所管もあります。でも、その所管を超えて、このメンバーでこの特別委員会が特化して交通施策について議論し、最終的には結果を出していかないといけないので、その辺りは所管で各常任委員会、あるいはこの特別委員会で云々というのは、事務局も交えながら議長に相談していきましょう。だから今のもシビアよね。確かに理科大が絡んでくると総務文教の所管になる。先ほど奥委員が言われたように、福祉タクシー的、あるいは福祉バスのような雰囲気で行くと民生福祉になっていくといったようにいろいろあるんでね。それはすごく重要で、常任委員会と特別委員会の線引き、ある程度は考慮しながら扱っていきましょう。そのほか、濱本委員と奥委員が言われたことについて、ほかにありますか。

中岡英二委員 恒松委員の言われた、理科大生の移動の悩み、ここでいう生活の足ってことかな。そういう若者世代の移動の悩みとか、子育て世代の方もいろいろな悩みとかがあると思うんですよ。高齢者ももちろんあると思いますし、地域別の移動の悩みもある。世代別の悩みがあるんで、その辺を深掘りしていったらいいんじゃないかなと思います。

宮本政志委員長 そうですね。そういった議論を深めていくに当たって、濱本委員や奥委員が言われるように、今の本市の施策や実態を私も含めた全員の委員の皆さんが正しいことをしっかり把握しておかないことにはなかなか進んでいかないんで、濱本委員と奥委員が言われたこと以外で、付議事項のうち本市の交通施策についてで、今後このように取り組んでいったらどうかというような御意見があったらお願いします。

濱本健吾委員 交通不便を解消するのも大切なんですけれど、ある程度受益者負担という観点も必要かなと思っています。例えば、コミュニティバスに200円で乗れるんですけど、コミュニティバスが通っていないところでは200円でバスには乗れませんし、デマンド交通についてもデマンド交通があるところは安く乗れるというのもあるので、そういった観点も必要ではないかなとは考えています。

宮本政志委員長 そうですね。その辺はまた財政、いろいろ予算のことも絡んでくるでしょうね。それから、あくまでこの特別委員会は、交通不便を解消していくという1点に特化した特別委員会じゃないんで、当然そこはこの委員会の目的の最終的な結果にすごく重要な部分を占めるでしょうけど、いろいろな方面から調査研究して議論を進めながらということになっていくでしょうね。そのほか、ありますか。

伊場勇委員 委員長のおっしゃるとおりだと思います。本当に今だけじゃなくて、持続可能な将来を見なきゃいけないということだと思います。データをいろいろ見ると、毎年300人以上の方が免許を返納されていて、

数が今からどんどん増えるということなので、それを見据えてデータを分析した上で、持続可能な交通状況をつくらなきゃいけないと思います。例えば通院、買物、趣味といった移動の目的で分けてみて、この施策がどこに当てはまっているのか、どこが薄いのかってなると、執行部から今の状況をいろいろ聞く上で、優先順位をつけやすくなるかなと思います。そういうような観点も必要かなと思います。

宮本政志委員長 議長も、もしよろしかったら、いつでも御発言を頂きたいと思います。事務局も何か気になる点があったら遠慮なく挙手してね。そのほかにありますか。皆さんの意見を聞いていますと、まずは本市の施策の実態把握ですね。施策も多岐にわたるし、これは財政にも絡んでくるしね。なるほど、分かりました。本当は今日、さっきの中村委員の意見のところで言いましたけど、付議事項を二つに分けなければよかったな、一つにすればよかったなと思ったのが、実は今の本市の交通施策についてと、本市の交通事情の実態把握についてということで、それぞれ委員の皆さんでどういうふうな形で調査なり把握なりを進めていくかというのを決めていこうと思ったんだけど、交通施策については執行部の部長、次長、課長の皆さんが御存じなんで、委員が具体的に、例えば3常任委員長でやってもらってから2番でと考えていたんだけど、その点の振り分けに関しては3番のその他に行こう。今してしまうと、2番に影響してくるなと思って。なかなか今、いろいろな深い意見が出ているので。付議事項1点目について、そのほかございますか。皆さん、焦って数か月でこの特別委員会が結論を出さないといけないというようなことは考えられずに、もうしっかりとした結果を出さない、これは議長の諮問ですから、必ずこの委員会が答申しないといけないので、しっかり期間をかけてやっていきますのでね。

中村博行委員 今まで公共交通の施策の先進地と言われるところに何市か行ったことがあります。その市には適していても、それぞれ状況が違って、なかなか本市にそれが必ずしもマッチしているとは思われないよう

な状況もありますので、その辺は十分注意して視察場所を見つけていったほうがいいと思います。

宮本政志委員長　そうですね。視察というのも会派あるいは議員が個人的に行った視察もあれば、委員会視察も過去には行きましたよね。そういったものを踏まえて、いろいろなデータを集約していかないといけないでしょう。でも、中村委員の御意見からすると、これは美祢線、小野田線、つまりJRの関係もある、あるいはバスもあればタクシーもあれば、いろいろなところの地域だけじゃなくて、いろいろな機関といったところも必要になってくるのかな。中村委員がおっしゃったことも踏まえて、御意見はありますか。これはまた、視察に行かないといけないときは、さっき言いましたけど、貴重な税金を使って我々その視察に行くわけですから、ただ行ったというだけじゃ駄目ですよ。行ったことを必ず市民の方にお返ししないといけないので、そういったことも踏まえてしっかり考えて、財政規模とか人口規模とか抱える課題とか問題を大体共通できるようなところに見にいかないと。東京に行っても、東京都とここを比べてもってことがありますから、その辺りはまた協議していきましょう。そのほかにありますか。付議事項の1点目はよろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）議長よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）そうしましたら、2点目に入りましょう、今度は本市の交通事情の実態把握について、先ほど中岡委員や中村委員が少し触れられましたけど、これも少し幅が広いし、いろいろ多岐にわたるし、方法論もいろいろな形があるでしょう。御意見等ありますか。ちょっと難しいっていったら難しいけど。さっき中岡委員と中村委員が、地域だけじゃないけれど、市民の方の中でもいろいろ交通事情についての考えや意見——さっき免許の返納のことも伊場委員が言われたかな。そういった形で、多分十人十色でいっぱいあると思うんですよ。具体的にどのような形を取りながら実態把握を進めていったらいいかという御意見を頂きたいと思います。

濱本健吾委員　やはり地域に出向いていく必要があるので、広報広聴特別委員

会と協力しながらやっていく必要があるかなと思います。

宮本政志委員長 ちょっと待ってよ。各地域の……

濱本健吾委員 各地域にこちらから出向く必要があると思いますので、広報広聴特別委員会の広聴部会等と協力しながらやっていく、声を聞いていく必要があるのかなとは思っています。

宮本政志委員長 ちょっと二つ分けようね。広報広聴は後からにしよう。各地域というのが、濱本委員の中では、例えば何かあるかな、案みたいな考えが。地域といっても、例えば地域運営協議会の11小学校区のRMOでの「地域」という見方もあるし、旧山陽、旧小野田という「地域」の見方もあるし、中山間地域を抱える山陽地区というように、地域といっても定義がいっぱいあるんで。

濱本健吾委員 まずは場所かなと思います。山陽地域であったり、小野田地域であったり、本山地域であったり、それぞれ課題はいろいろあると思いますので、そういった声を聞いていくことが必要かなと思います。

伊場勇委員 そういう意味では、RMOが立ち上がっていて、そこには活動をいろいろされている方もいらっしゃる。また、若い世代が結構活躍されているところもあるので、地区運営協議会に対して座談会を申し入れると、いろいろな意見を吸い上げることができるんじゃないかと思います。

宮本政志委員長 そのほかにはありますか。各地域からとかRMOとかという具体例も出たけど。

恒松恵子委員 実態把握の点では、議会報告会でいろいろな御意見も頂きましたが、やはり地域性が偏っていると見受けられますので、先ほど伊場委員がおっしゃったように、RMOなり地域ごとの意見を集約するほうが

よろしいかと考えます。

宮本政志委員長 RMOという単位の前提ね。つまりそのRMOの役員とか云々とかって話が出てないからね。あくまで地域の定義としたら、RMO、つまり11小学校区になるのかな。今の点について御意見はありますか。広報広聴を絡めて云々というところには、まだ議論に入らないけれど、各地域というのがね。

伊場勇委員 RMOの単位で1回やって、まずそこでまた出た意見でもっと狭い地域の声が必要だとなれば、自治会単位になるとかあるかもしれませんが、まずはRMOの地域の枠で話す必要があるかなと思います。それとはもう一方で、交通関係を運営する民間企業としてバス会社やタクシー会社がありますので、その状況——運転士不足といったようなリアルな課題というものは何なのかというのも実態把握の中にも含まれると思います。

宮本政志委員長 そうね。伊場委員が言われたこと、そうなんよ。交通施策についてということも交通機関であるJRやバス会社にも絡んでくるけれど、今の実情、どのようなことを民間企業や交通機関がやっているか。それもこの2番に関しては少し絡んでくるんですよ。ただ、先ほど中岡委員や伊場委員が言われたように、ただ地域RMOの定義でいきますよって。その中で、今日じゃないけれど具体的に今から絞っていかないと、各地域の中でも、先ほど言われた免許を返したいんだけど返せないとか、あるいは免許を返したのはいいけれど出られないとか、あるいは今からの若者とか、いろいろなターゲットが今度は分散されるんで、その辺りはどういうふうに11地域を定義として、実情を把握していこうかというときには詰めていかないといけなくなるね。でないと、どっかに偏ってもいけないからね。そのほかにありますか。広報広聴は少し置こう。さっき恒松委員かどなたかがおっしゃったように、これまで議会報告会等でものすごくこの交通事情に関しては御意見を頂いています。

これもこういった意見があったかなというのは過去を遡ってといたら膨大になるけども、本当この二、三年ぐらいの間というのはこの委員の皆さんは、報告書がもう出ていますし公開もされていますんで、しっかり目を通して精査してみないといけないね。この付議事項の２点目について、御意見等はほかにありませんか。

中岡英二委員 先ほどから各地域のＲＭＯに実態を聞くというのがあります。これももちろんいいことだと思うんですけども、先ほども言いましたように、理科大生や高校生からのリアルな声というのは、その場では聞けないと思うんですね。やはり、各地域のＲＭＯのお話を聞くのも一つですけれども、学生の意見を聞いていくのもいいんじゃないかなと。さっき言った子育て世代や高齢者の意見というのは、ＲＭＯの中で出てくると思うんですよ。だからそういう細かなところも聞いていって、実態調査につなげていったらどうかなと思います。

宮本政志委員長 ということは、ＲＭＯというのも一つの手法、地域割りという形で、何かターゲットを絞って、「よし、声を聞きに行くぞ」ということかな。（「はい」と呼ぶ者あり）なるほど。いろいろな意見が出ているな。ターゲットを絞っていかないといけないかな。

恒松恵子委員 市がアンケートを取っていないかを調べましたら、令和３年から４年にかけて、住みやすさに関するアンケートをしています。個別の意見はないんですが、お住まいのところは交通事情が充実していますかというような項もありますので、市がほかにアンケートをしておりましたら、その活用も一つの案かなと思います。

宮本政志委員長 恒松委員、すごく貴重でね。総務文教担当の委員から出るかと思うんだけど、そうなんよ。だから、地域運営協議会、執行部のほうが各地域のＲＭＯに対して、交通関係だけじゃないにしても、いろいろなアンケートを取っているような気もするし、取っていないのかな、

その辺が不透明やね。だからRMOということが出ていますんで、その辺りはしっかり——仮に、アンケートや地域の方からいろいろな意見があって、この交通事情に関することが出ていれば、恒松委員が言われることはすごく重要で、その辺りは執行部とすり合わせながら、あるのであれば頂きましょう。本当にそれはすごく重要と思う。

奥良秀委員 今のアンケートの件で、私もちょっと探しきれなくて、どこにあるかなと思っていたんですけど、たしか担当の民生福祉のときに、いろいろな選択肢がある中で、例えばいろいろなものがあつたときに、これが欲しい、これが欲しいって、どうしても欲しいものに丸をつけたがると。だから、ないものに丸をつけたがる傾向にあるから、そういうアンケートは少し慎重に審査されたほうがいいですよという答弁を頂いたこともあります。やはり、そういったものも参考にしながら、また私たちは私たちでいろいろなことを考えながら、アンケートや実態を執行部よりももう少し精査して、データを取ったほうがいいのではないかと思います。

宮本政志委員長 そうすると奥委員、この2番の付議事項については、委員会として、つまり委員会としてってことはイコール議会としてになるんだけど、アンケートも取っていったほうがいいと。そういったことも議論したほうがいいよってことよね。もう皆さん、委員長を経験していらっしゃる方も多し、中村委員なんか副議長を長年経験しておられるんで、本当によく分かっていらっしゃると思うんですけど、執行部も正直に言ったら困っているところがあると思うよ。どうしたらいいんだろうかというところが。それは議会と執行部で対立して云々という方向性は、高松議長も私も皆さんも全く考えていないと思います。ただ、なれ合いにはなっちゃいけないけれど、執行部とは協力しながら、奥委員が言われたような形でと。そのほかにありますか。

伊場勇委員 市のLINEアカウントには、既に5,000人近くに登録して

いただいています。そこにアンケートを載せて、若者世代はアンケートに回答できる仕組みがあるので、そういうのも執行部と協力すると。若者、現役世代、あるかなと思います。また、それにプラスして紙でアンケートを取るというのも、例えば学生だったら理科大に協力してもらえるかもしれませんし、そういうところと併用して何かデータを集めるというの必要なと思います。

宮本政志委員長 SNSやLINEも活用していかないとね。そのほかにありますか。ちょっとこれ、僕のミスだな。1番と2番を分けてしまったから。さっき言った懸念が少しずつ出てきているんで、ここで暫時休憩を入れます。

午前10時2分 休憩

午前10時13分 再開

宮本政志委員長 それでは委員会を再開します。今、付議事項2点目、地域、あるいは団体や世代、そういったところもいろいろ協議していきながら実態把握に努めていきたいと思います。よく分かりました。2番についてそれに付随した意見でもいいし、あるいはそれ以外の御意見等でも、ありましたら。

恒松恵子委員 先ほど、民間の交通事業者へのアンケートと言われましたが、よく委員会の中で、免許証を返納して何のメリットがあるのかという声もあると聞きます。これは本当に民間事業者の協力なので委員会にはそぐわないと思うんですが、返納したことで、タクシーでしたら10%割引のようなサービスを設けているところがありますので、そういうところを増やすような働きかけをどこかでされたらいいかなと思いました。
(発言する者あり)

宮本政志委員長　だから、これはさっき３常任委員会の所管のことも言われて、非常にシビアになってくることなんですけど、予算も絡んでくるよね。そうすると、今後この９月定例会で決算も出てくるし、我々は議員ですから今後の予算もしっかり研究しながらやっていきましょう。付議事項２点目について、そのほかにはないですか。（うなずく者あり）またあれば、２番について御意見を頂きたいですけど、今のこの付議事項の１点目と２点目というのは少し色合いが違うよね。交通施策についてと交通事情の実態についてなので少し色合いが違うんだけど、施策についての把握と交通事情についての把握をこの委員会でどのように進めていったらいいか。もしどなたかに意見があればお聞きしたいなと思います。委員全員で交通施策について調べる、委員全員で交通事情の実態把握を調べるという方法もあるし、この委員の中でそれぞれ少し分けてやっていこうという考え方もあるし、何か御意見はありますか。

伊場勇委員　まずはその土台となる現状を把握するということで、執行部の今の施策等々、今のデータについては一つの部会というものがあって、そこでまとめていただく。また、もう一つ、付議事項の２番目の実態調査のところについては、どういうやり方が一番ふさわしいのか、そのデータをまとめなきゃいけないので、それぞれ分けて進めていくのが効率的ではないかなと思います。

宮本政志委員長　全委員がやるんじゃないなくて分けていこうという意見に対して、委員全員で交通施策についてと交通事情の実態把握についてすべきという御意見、つまり伊場委員とは違う意見があればお聞きします。ないってことは今の伊場委員の意見と皆さん一緒かな。

奥良秀委員　１番、本市の交通施策については、全委員が知っておかないとまずいと思いますので、全員のほうがいいと思います。２番、実態把握については、いろいろな手法があると思いますので、１人でやられるんじゃないなくて担当で分けて、複数でしたらいいんじゃないかと思います。

伊場勇委員　もちろん、施策の把握って必ずみんなでしないといけないと思うので、それはいいと思います。もちろん部会に分けるというのは、例えばそこでまとめる作業は分けてやったらどうかなという意味です。なので、実態調査・把握をするやり方は、一つの部会でいろいろ精査した結果を提案して、ここで皆さんと確認をすると。もちろん出た調査結果等も間違いなくここで皆さんと共有して、その後の提言につなげていくというやり方をしてはどうかと思うところです。

宮本政志委員長　実際そういう前提よね、それはね。

奥良秀委員　私も2番目の実態把握のところにつきましては、どういう調べ方がいいかをまずはここでイニシアチブを取って、分けて、情報を集めたものを吸い上げて、この委員会の中で再び取り上げ、ブラッシュアップしていければいいと思いますので、伊場委員と同じです。

宮本政志委員長　そうすると、ほかの委員の方、御意見はあるかな。つまり本市の交通施策については、数名の委員で調べていこうと。違う委員の方のグループは、本市の交通事情をどのように実態把握していくかを検討していくと。当然、最終的にはこの委員会で議論して決めていくんですけど、そういう意見だな。伊場委員と奥委員が言われたのはそういうことですけど、そういう形で進めていったいいですか。異議はありませんね。（「はい」と呼ぶ者あり）はい、分かりました。そうすると、委員長としてはそれを決めておきたいな。この流れを見ると、1番の交通施策については、どうなんだろう、何か御意見があるかな。今の委員の中でこういう方でやったほうがいいんじゃないかというのがあれば。私がいきなり言うのもあれなんで。まず、本市の交通施策やね。

伊場勇委員　交通施策についていろいろ実績がもう出ているところもありますし、すごく利用されていて喜ばれている施策があるけれど、なか

なか浸透していない施策があつてといった順列をつけると、「ここがまだ手薄だよな」というところが可視化できると思います。そういうところをまとめる作業は3常任委員長のほうが、情報がいろいろ入ってくるのでやりやすいかなと思います。それ以外の方が、実態把握の合理的なやり方等々をきちんと精査して委員会の場に上げるというような形はいかがでしょうか。

宮本政志委員長　伊場委員の意見では、中岡総務文教常任委員長、奥民生福祉常任委員長、恒松産業建設常任委員長の3人が本市の交通施策について調査して行って、ほかの委員の皆さんが交通事情の実態把握について調査していきましょうということやね。今の意見について、ほかにありますか。今の伊場委員の意見についてでもいいし、それ以外の意見でもいいですよ。

恒松恵子委員　今、各常任委員長がまとめるということで、私が担当の産業建設について考えておりました。産業建設には地域公共交通計画で、市の施策が網羅されております。データでは令和3年度ということで若干古いものが多いので、それについて執行部に独自に調査していくことは認めていただくということによろしいですか。数字の把握です。確認のために執行部に尋ねることは構わないということによろしいですか。

宮本政志委員長　ちょっと待ってね。執行部にデータを取りに行くという話の前に、伊場委員からあったグループ分けについてを先に決めておきたいです。そうすると皆さん、伊場委員と奥委員が言われる交通施策については中岡委員、奥委員、恒松委員の3人、交通事情の今の実態把握についてどのように進めていくかという方向性については、伊場委員、濱本委員、前田委員の3人——中村委員が産業建設では委員長も長いし、副議長も長いんで、中村委員は加わらずにあくまで3常任委員長で。だから本日の付議事項の1点目になるけど、中岡委員、奥委員、恒松委員で本市の交通施策についてをやってもらって、そのほかの委員で交通事情

の実態把握についてということによろしいですか。異議はありませんね。

（「はい」と呼ぶ者あり）では、それで行こう。先ほど恒松委員が言われた件ですけど、これは、広報広聴特別委員会的时候にも少し気になって、この委員会でも少し気になるから先ほど言ったんですけど、各委員それぞれが執行部のところに行って、データをもらってここでやると、執行部も混乱するし、また無駄なというか大きな負担をかけるようになるんで、そういった観点からすると、交通施策については3人の委員で打合せをしてください。各委員長ですから、部長とか課長とかもそれぞれの委員会の担当のことは詳しく御存じなんで、それは事務局にも相談しながら、しっかり情報を取ってください。交通事情の実態把握については、また少しシビアになってくると思います。というのが、議員のほうの意見も聞いていかないといけない。そうすると会派が絡んできたり広報広聴特別委員会が絡んできたりするんで、その辺りもしっかり議論をして、私と事務局とのすり合わせは密にしてください。必要なときはもう随時私が議長に相談します。それで行きましょうか。よろしいですね。（「はい」と呼ぶ者あり）では、付議事項の1点目と2点目を終わりますして、3点目のその他に行きます。先ほどちょっと濱本委員のほうから広報広聴特別委員会の件が少し出たんですよ。委員長としては、特別委員会というのは、それぞれ独立した別々の委員会なんですけど、先ほど濱本委員も少し言われたように、ホームページやSNSを使って――伊場委員が言ったかな、あるいは濱本委員はまさに議会だよりのほうの広報の部会長なんで、議会だよりの活用したり、当然、議会報告会が絡んできたりというのがあるんでね。あくまで独立ですよ、それぞれ特別委員会というのは。とはいえというところがあるんで、広報広聴特別委員会との連携というかスタンスについて、何か御意見はありますか。別にこれは委員会議決で云々じゃなくて、皆さんの意見を聞いて、私と議長と事務局とすり合わせしてスタンスを示していきますので。

伊場勇委員　実態把握の中では、いろいろ広告媒体もありますし、現に市民の方が集まる機会も議会として持っているんで、そこで何かアンケートを

取れば有効的に使えるはずですから、委員会の中で意見を出し合って、
こうしてほしいというところは広報広聴特別委員会に打診するというこ
とにしたらどうかと思います。

宮本政志委員長 そのとおりだと思います。ここはもう公共交通のことに關し
て、くらしの移動を支えるためにどうするかということに特化した特別
委員会です。ただ、広報広聴特別委員会と協力してできるところはやら
ないと、同じことをそれぞれやって、二つやっても効率が悪いんで。ま
さに今、伊場委員がおっしゃったとおりでしょう。そのほかにあります
か。

奥良秀委員 議会だよりを全戸配布していますので、アンケートを取れるよう
なものを考えながら、有効に使っていければいいのではないかなと思っ
ています。

宮本政志委員長 分かりました。そうすると、交通事情の実態把握についてと
いうのは、少し広報部会も絡むところはあるけど、濱本委員が交通事情
の実態把握についてのメンバーとして動かれるんで、その辺りは視野に
入れながら協議していってください。そのほかに何かありますか。こう
いったことがどうこうというのがあったら。今日いきなり全てを決めて
いくわけじゃない。今日方向性が定まったんで、その方向性でやってい
きましょう。大丈夫ですか、皆さん。よろしいですか。（「はい」と呼
ぶ者あり）事務局、何か気になることがありますか。（発言する者あり）
すみません、本日、中島委員から欠席届が提出されておりました。冒頭
でこれをお伝えしないといけませんでした。それではその他がありません
ので、もう一度本日の特別委員会のまとめですけども、方向性として
は、本市の交通施策について、これを中岡委員と奥委員と恒松委員にお
願いするということです。それから交通事情の実態把握については、伊
場委員、中村委員、中島委員は本日欠席ですけどね。それと濱本委員と
前田委員でやっていただくと。正副委員長のほうは両方それぞれ把握を

していくのに参加していきますのでね。そういうことでよろしいですね。
（「はい」と呼ぶ者あり）それでは、本日のくらしの移動を支える特別
委員会を閉会します。お疲れさまでした。

午前 10 時 30 分 散会

令和 8 年（2026 年） 4 月 13 日

くらしの移動を支える特別委員長 宮 本 政 志